そうで、商品にできるのは約75 で売られています。 しゅうは全ては商品にできない たんさん、あんこのない

いました。

大きくなった牛は1日に2010のえさを食べます

の種類は、つぶあんさんいるからです。ま があります。市内の店のサンリ 店で働いている添田裕二さん んや大分市のトキハわさだタウ というお店があります。お 竹田やすごうなどの道の駅 まんじゅうを作る「ほた つぶあん、こしあ 区にホタルがたく =にインタビュ をしました。 店の名前の由 まんじゅう 作ったまん さを見つけられたらいいなと思 聞いて、自分でそう作する楽し ありました。私たちはこの あると思うので、自分で考えて かと思っています」という話が がった楽しさがあるんじゃない しんで何か作ったら、またち

自分でそう作する楽しさが

手作りに

けられます。大きくなった牛は子牛、お肉になる牛と三つに分

ようこではなくて、自動を ミルクも、1頭

ようにしていま

日に20世のえさを食べます

を産む母牛、

せりに出すための その中には、

せん風機が回る

たり、きりが出たり、きりが出

かんそうしたり もありました。

暑くなったり、

るためのせつび

事をし

でしようと考えていないのをしようと考えていないの 古沢さんたちがして

古沢畜産には約200頭もの

とにおどろきま

いる方がいるこ で、牛を飼って

においがしまり いかん境にす

牛が住みや

た。竹田小校区

ましたが、とて

もきれいでした。

においも、

牛の

えさになる草の

た。私たちも、今は畜産業の仕んでいる」という話を聞きまし

られることが当たり前になる中、「おいしい物をかんたんに食べことだそうです。添田さんから なくなっています。 手作りの物を作ることは少

ることと、すばらしい味を作るさんにおいしく食べていただけが田さんのやりがいは、みな%だそうです。



士さん (35)

||一顔写真右||と尊

そうです。牛舎の広さは、小学う短い時間でえさをあげている毎日たった6人で、1時間とい

尊士さんから「農業や畜産業いることにおどろきました。いて、コンピューターを使っていて、コンピューターを使って

1時間とい

士さん (34)

校のグラウン

同左=兄弟に話 をうかがいまし

というとくさい

イメージがあり

す。とても広かったです。

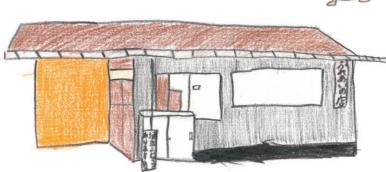
らのたです。生舎にも個分ありま

などの仕事をする人が減ってき

ているから、増えてほしいと思

いろいろなことに取り組









取りなどです。ピオ

ン、シャインマ

スカットなど

変なことは、手 いるそうです。

深さ約55%の

を掘って植え

てるために大

ときに生かしたいと思いました。に。しょう来に何かさいばいする

ウの房は、子どもの の種類が植えられて

顔くらいの大います。ブド

うです。ブドウがで もらいたいという そうですが、 に、自分が作ったブ 進でブドウ担当だっ たきっかけは、竹田 渡部さんがブドウ 自分 できあがった後こともあったそ

きさに育ちます。 田市農政課の推り作りをはじめ の子どもたち ドウを食べて たこともある



渡部哲哉さん などで、 宮城地区には、 ブドウ作りをし ブドウの木は、

の広さは、 らうかがいまし 広さ直径約1 ||顔写真||に 送するそうです。 道の駅や竹田温泉花水月に直

たです。 番大切ということがわかりまとの果物のさいばいでは努力が て作られたブドウを、私たちも収このようにいろいろと工夫をし 私たちは、この学習でブドウな

米作り、ブドウ作りなどが盛んです。地域の方々にインタビューし、学んだことをこら、みんなが通っています。水がとてもきれいで自然豊かです。この場所を生かした の記事にまとめました。竹田小の地域のみ力を知ってもらえたらうれしいです。 私たちの学びや、竹田小学校には竹田の片ケ瀬、 明治の四つの地域か



竹田市 竹田小学校 5年生



作りに良さそうな場所で

「なつほのか」「つや姫」

ここで育てられる米は

ノヒカリ」など。

全て自然

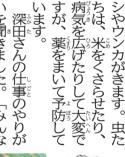
豊かな場所で作られたお

を作っている深田忠治さんす。竹田の片ケ瀬地区で米 (64) =顔写真=に話をう を見ると自 た。片ケ瀬 かがいまし 然豊かで米

いを聞きました。

た。このような深田さんたちの努力によっておいしい米が作られています。私たちは、深田さんの話を聞いて、ふだん私たちがを聞いて、ふだん私たちがを聞いて、ふだん私たちがを聞いて作られている米はこんなに努力して作られていると思います。たく食べたいなと思いました。また、いろいろな種類た。また、いろいろな種類た。また、いろいと思いました。また、いろいと思いました。また、いろいと思いました。また、いろいと思いました。また、いろいと思いました。 で片ケ瀬を守るのが一 てもすてきだなと思いまし みんなで守るのは、

やりがい」と言っていまし たかせました。「みんな深田さんの仕事のやりが





竹田市は野菜作りが盛んですが、米作りも盛んで





いしい米が作ら努力によってお

JR豊肥線

竹田小

竹田市役所

新聞ができるまで

る人が増えてくるのではと思り組みが広がると、畜産業を

竹田市の中心部から近い竹田小学 校。地域は古くから豊かな自然を生 かした農業や畜産業が盛ん。5年生 26人は地域の魅力を伝えるため、片 ケ瀬と岡本、宮城、明治の各地区へ

取材に出かけて新聞を作った。 「文章は短めに。端的な表現のほ うが読者にはわかりやすい」。大分 合同新聞社竹田支局の原田宏一記者 (44)は原稿を書く際のポイントを説 明。練習として、児童は童話「もも たろう」を100文字以内でまとめる 体験もした。

稲葉川沿いの高台に水田が広がる 片ケ瀬地区では、農家の深田忠治さ ん(64)から稲を病害虫から守る苦労 や仕事のやりがいを質問。「米をも

っと大切に食べよう」と感じた。 岡本地区では、黒毛和牛約200頭 を飼育する古沢畜産に訪問。古沢智 士さん(35)と尊士さん(34)の兄弟が 牛舎を清潔に保ち、愛情を込めて育

竹田市竹田小

地域の人の努力 伝える

す。それは虫です。カメム

た。

米のてきもたくさんいま

ってきたそうです。

注文されてとどけるように

なり、ひょうばんが良くな

は、深田さんたちがくらせ

しい米です。片ケ瀬の米

るようにと作った物です









竹田IC

新聞づくりの様子を ご覧いただけます

てていることを学んだ。

宮城地区のブドウ農家、渡部哲哉 さん(56)からは栽培するきっかけや 思いを聞き、収穫を体験。明治地区 はまんじゅうを製造する企業「ほた

る」を訪ねた。商品は市内の道の駅 や大分市の百貨店などに並ぶ。添田 裕二さん(58)の「手作りのおいしさ」 に対するこだわりを知った。

旬見出しやレイアウトをみんなで考えた(10月6日)

児童は「何を伝えるか」を考えな

がら記事を書いた。大分合同新聞社 ニュース編集部の金田満里子記者 (40)から見出しやレイアウトについ て教わった。地域の魅力や思いが詰 まったカラフルな紙面が完成した。

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題 を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すこと を目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室 「飛び出せ学校」係へ。097·538·9729、Eメールnie@oita

press.co.jp